

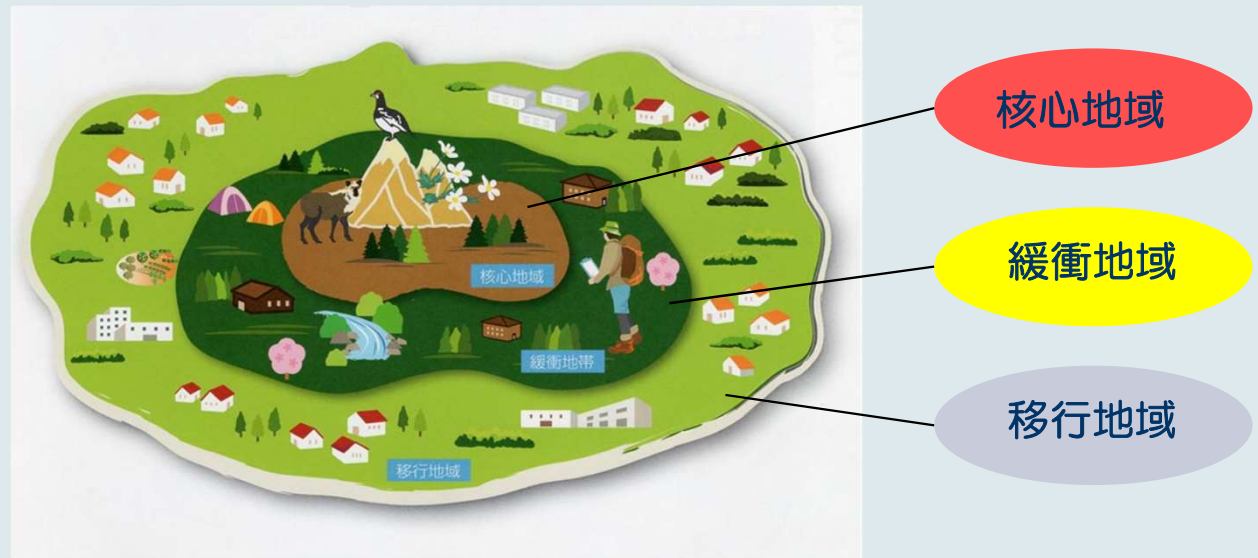
令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク推進事業 実績報告

ユネスコエコパークとは

ユネスコエコパークとは、「生態系の保全と持続可能な利活用の調和（自然と人間社会の共生）」を目的として、ユネスコが認定する取り組みです。具体的には、「地域の自然と文化を守りながら、地域社会の発展を目指す取り組み」で、世界では「生物圏保存地域（BR：Biosphere Reserves）」と呼ばれ、現在**129カ国 714地域**、うち**日本では10地域**が登録されています。（2020年10月現在）

南アルプスユネスコエコパークは、山梨県、静岡県、長野県にまたがる、日本最大のエリアを持つエコパークで、山梨県では、北杜市のほか、南アルプス市、韮崎市、早川町が登録されています。

総面積	302,474ha
核心地域	24,970ha
緩衝地域	72,389ha
移行地域	205,115ha



日本のユネスコエコパーク

1980年登録
白山(石川・福井・富山・岐阜)

1980年登録
志賀高原(長野・群馬)

2014年登録
只見(福島)

2017年登録
みなかみ(群馬・新潟)

2019年登録
甲武信(山梨・埼玉・長野・東京)

2014年登録

2017年登録
祖母・傾・大崩(大分・宮崎)

2012年登録
綾(宮崎)

1980年登録
屋久島(鹿児島)

1980年登録
大台ヶ原・大峯山
・大杉谷(奈良・三重)

1980年登録

南アルプスユネスコエコパークは、
2014年（平成26年）6月12日登録！

南アルプスユネスコエコパークのエリア

エリアは、南アルプス国立公園を中心とした地域

➡ 北杜市は、白州・武川をエリアとして登録

核心地域

国立公園の特別保護地区など自然環境を守らなければならない大切な地域で、北杜市では南アルプス国立公園の地域で適切に保護されています。

緩衝地域

核心地域の周辺で、環境教育、野外活動、調査活動等に利用できる地域であり、山梨県立自然公園の地域です。

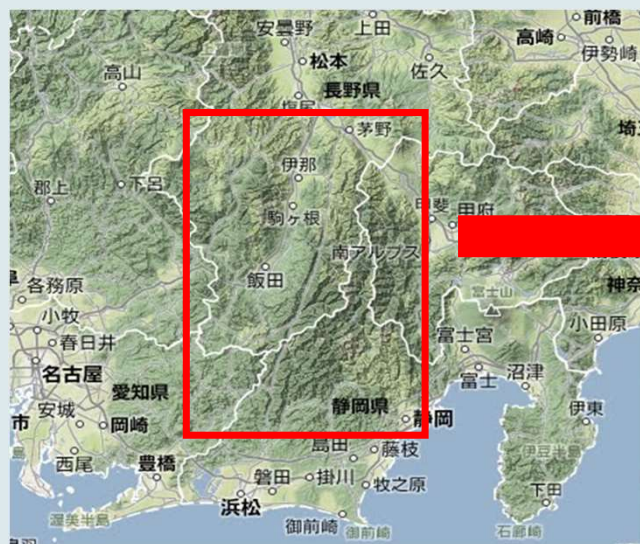
移行地域

私たちが暮らしを営んでいる地域で、様々な社会活動が行われています。

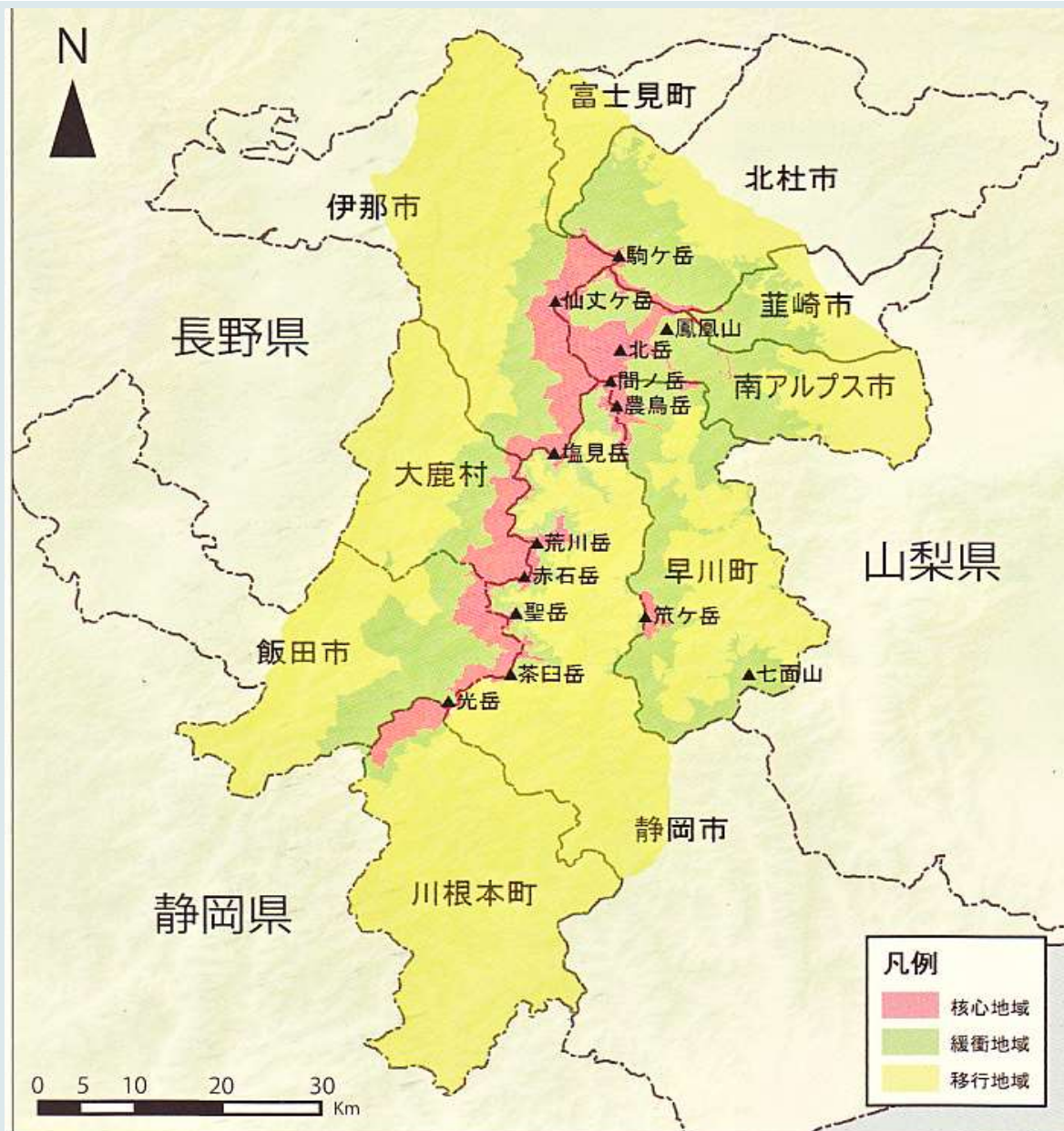
白州・武川エリアの資源

山	甲斐駒ヶ岳、地蔵ヶ岳、日向山など
景観	山岳景観日本一、尾白川溪谷、精進ヶ滝、桜、里山、田園など
水	清流（尾白川、神宮川、大武川、石空川など） ミネラルウォーター生産量が全国の約3割を占める
産物	米、そば、長芋など
歴史・文化	台ヶ原宿、神社、山岳信仰、民話、虎頭の舞、奉納相撲、大和神楽など

南アルプス ユネスコエコパーク区域図



総面積 302,474 ha



ユネスコエコパークの魅力は

- 南アルプスの山岳環境を永続的に保全していく体制づくりを行い、豊かな自然環境を守り伝えていくことができます。
- ユネスコエコパークとして、ふるさとの魅力を世界へ発信することで、国内外から観光や教育を目的とした旅行者の増加が期待できます。
- 新しい法律や規制はありません。国内の既存の法律などで管理されます。
- 環境教育や学術研究の実践の場として活用できます。

南アルプスユネスコエコパーク事業の目的

- 甲斐駒ヶ岳を中心とした世界に誇れる貴重な資源を再発見・再認識し、自然と文化のつながりを市民共有の財産として位置づけ、優れた自然環境の継続的、永続的な利活用をはかりながら、魅力あるまちづくりを進めることを目的としています。
(北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会規約より抜粋)
- この目的を達成するため、北杜市では市民、企業、団体、行政が一体となり、『北杜市南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会』を設立して、市と協働で事業を実施しています。



令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

事業名	科目	予算額	決算額
①－1 森林整備等財産区活動支援事業	補助金	1,270千円	1,217千円
①－2 白州町地下水保全・利用対策協議会モニタリング事業	委託他	320千円	170千円
②－1 伝統芸能等保存事業	補助金	100千円	0千円
②－2 こども公民館劇場事業（北杜もり上げ隊）	報償費	160千円	0千円
②－3 災害伝承碑保存継承事業	委託費	500千円	500千円
③－1 環境保全普及啓発事業	補助金	305千円	8千円
③－2 情報発信事業	補助金	300千円	0千円
③－3 動植物保全活用次世代育成事業	補助金	500千円	496千円
④－1 P R・情報発信事業	消耗品費	792千円	195千円
④－2 地域の魅力掘り起し事業	補助金	500千円	495千円
⑤－1 関係市町村との連携事業	負担金他	861千円	780千円

令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

①-1 森林整備等財産区活動支援事業

■ 予算額 1,270千円 決算額 1,217千円

白州町並びに武川町内の財産区、保護組合の森林保全活動の支援を行いました。

豊かな森が、きれいでおいしい水を育み、里山の様々な活動に潤いを与えてくれます。下草刈りや樹木の枝払い、道づくりの環境整備などに必要な物品購入に活用しています。

①-2 白州町地下水保全・利用対策協議会 モニタリング事業

■ 予算額 320千円 決算額 170千円

地下水のモニタリング調査を行いました。コロナ感染拡大防止のため、会議等は中止となりました。

②-1 伝統芸能等保存事業

■ 予算額 100千円 決算額 0千円

毎年行っていた民話などの発表会はコロナ感染拡大防止のため、中止となりました。

なお、釜無川で令和元年の台風の影響により、材化石が出土したことから、材化石の見学会を行いました。学術課の実施した2万5千年まで遡れる炭素測定では、測定ができなかったことから、それ以前のトウヒ（松系）と思われます。



②-2 こども公民館劇場事業（北杜もりあげ隊）

■ 予算額 160千円 決算額 0千円

コロナ感染拡大防止のため、事業はすべて中止となりました。

令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

②-3 災害伝承碑保存継承事業

■ 予算額 500千円 決算額 500千円

国土地理院が令和元年に過去の災害の教訓を活かそうと、自然災害伝承碑の新たな地図記号を作成し、地図に追加し、そちらに選定された、武川町の下三吹公民館と、上三吹神明社内の自然災害伝承碑に案内看板を設置し、除幕式を行いました。この案内板は地元の災害の歴史を後世に伝える有効な手段となっています。



③-1 環境保全普及啓発事業

■ 予算額 305千円 決算額 8千円

登山口に種子落としができるマットを設置し、外来種が生息するのを防いでいます。また、このマットについては定期的に清掃し管理しています。



③-2 情報発信事業

■ 予算額 300千円 決算額 0千円

南アルプスユネスコエコパーク連絡会の事業をわかりやすく伝えるため連絡会通信を作成し、広報に活用しました。

令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

③－3 動植物保全活用次世代育成事業 ■ 予算額 500千円 決算額 496千円

概要

昨年に引き続き「市民参加による生きもの調査」を実施するうえで必要となるリーダーを育成し、市民による生きもの調査の体制を構築することを目的とします。

実施内容

回数	時期	テーマ	概要
第1回	10月	中山の植物調査	中山展望台や中山砦周辺において植物調査を実施した。
第2回	10月	尾白川の水生生物調査	白州中学学校と連携し、白州・尾白の森名水公園周辺の尾白川において河川の生きもの調査を実施した。
第3回	12月	中山の植物調査	武川中学学校と連携し、10月に採取した植物の同定をしながら、標本作成を行った。
第4回	11月～3月	中山の哺乳類調査	中山林道周辺で哺乳類の痕跡を観察するとともに、夜間に活動する哺乳類の実態把握を行った。



令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

④-1 PR・情報発信事業

■ 予算額 792千円 決算額 195千円

南アルプスユネスコエコパーク地域連絡会は里山である中山を中心に事業を行い、中山をテーマにイベントや事業で使えるノベルティを作成し、整備事業出席者に配布しました。



④-2 地域の魅力掘り起し事業

■ 予算額 500千円 決算額 495千円

中山周辺の林道の整備、下草刈り、登山道、砦や展望台の整備を行いました。

武川中学校と連携し、全校登山を初めて実施しました。中山砦の歴史や展望台から見下ろす地元と360度パノラマの山岳景観のすばらしさを伝えることができました。

長野県の武田信玄狼煙の会とは、狼煙上げ事業を行いました。ユネスコエコパークエリア以外からも狼煙を確認することができ、中山のPRができました。

中山展望台からの眺望をより一層魅力的なものとし、市内外からの誘客を図るために、展望台周辺に、中山に自生するつつじやモミジの植樹を行いました。



令和2年度 南アルプスユネスコエコパーク関連事業

⑤-1 関係市町村との連携事業

■ 予算額 861千円 決算額 780千円

3県10市町村で組織する協議会及び山梨県連絡協議会での実施事業の運営、協力を行いました。

南アルプスユネスコエコパークをPRし、このエリアの素晴らしさを市民に再認識してもらうとともに、後世に守り伝えるため、市民、企業、団体と一体となり事業を進めてまいります。

